

#17

広報

正しい情報を伝え、誠実であること



今回は農業法人で広報の仕事をしている牧紳太郎さんにお話を伺います。高校を卒業してから車の販売の仕事をしていたという牧さん。販売数でトップになったりしたそうですが、いったん大学に進学し、卒業後、さまざまな仕事を経験してから現在の広報の仕事に就かれたそうです。「広報で大切なことは、正しい情報を伝え、誠実であること」と語る牧さんの仕事を紹介します。



MC・リポーター
廣村季生

広報の仕事とは

企業や国、NPO などの組織が、その事業の活動や方針を広く社会に伝えることが広報の仕事です。会社で起きていることを社内に伝えたり、イベントを行う際にさまざまなメディアに足を運んでもらうためにプレスリリースを作成したり、投資家に向けて情報を提供するなどの役割を担います。

広報の仕事をするには

特に資格が必要ということはないですが、広報の情報発信先は消費者、顧客、取引先、投資家、株主、社員、地域住民、官庁など多岐にわたり、良好な関係性を築くために、コミュニケーション能力やさまざまな知識・情報が必要とされます。そして、常に最新の動向を把握し、どのようなメッセージをいつ、どのように発信していくか考え、最大の効果が得られるよう行動することが求められます。時には組織にとってあまり良くない情報を伝えたり、危機案件に遭遇して対応をしたりしなければならないことがあるかもしれませんが、どのような場合も、冷静に、誠意をもって対処する必要があります。組織の評価を左右することもあるので責任重大ですが、やりがいのある仕事ともいえるでしょう



広報・牧神太郎さんに聞きました！

広報が一番楽しくて、やりがいのある仕事

廣村：牧さん、さっそくですが、広報担当者として現在どんなことをしているのか教えてください。

牧：はい。まず広報といっても業界によって仕事のしかたがそれぞれ変わってきます。僕は農業の会社の広報なんですけど、これが自動車業界だったりファッション業界だったり食品だったりITだったり、もちろんこのNHKにも広報の方が働いてらっしゃいます。それぞれに少しずつ広報の仕事のやり方が違うんですよね。なので今日は私がしている広報の仕事を紹介したいと思います。

廣村：ありがとうございます。

牧：始めに言っておくと、会社の仕事の中で広報が一番楽しくてやりがいのある仕事だと僕は思っています。広報の仕事というのは、会社全体の取り組みを広く社会に伝えていくことです。なので、会社全体を見渡して今何が行われているのか、次の新商品がいつ出てくるのか、働き方改革にどう応えていくのか、環境保全にどう取り組もうとしているのかといった、ニュースの種を会社の中から探して、それを世の中の流れを常に意識しながらタイミングあわせて伝えていくというのが広報の仕事です。もう少し言うとね、商品を買ってもらうことは皆さんがよく知っている広告なんです。広告はテレビ、ラジオ、新聞、雑誌、SNSなどの広告枠を買ってお金を払って伝えていく方法なんです。で、広報は広告と違って基本的にお金を払いません。それらのメディアの皆さんに取り上げてもらうことで伝えていく方法が広報なんです。

廣村：広告と広報って違うんですね。

牧：そうなんです。じゃあ、突然ですけど、ここで廣村さんにクイズです。リスナーの皆さんも考えてほしいんですけど、商品ね。水とかお茶とか買うときに、商品を買うお客さんというのは僕だったり廣村さんだったり、リスナーの皆さんですが、広報がメディアを通じて情報を届けたいお客さんって誰だと思いませんか？

廣村：情報を届けたい？

牧：うん、どんな人に会社の活動を知ってもらいたいかな。

廣村：取引先とかですか？

牧：おお、すごいね、よく知ってるね。あとは株式会社っていうと？

廣村：株主さん？

牧：おお、すごい。で、あとは例えば従業員の家族だったり、国だったり、役所だったり、地域の皆さんだったり。それらをね、まとめてステークホルダーと言います。

廣村：ステークホルダー？

牧：はい。広報の仕事の、要するにメディアを通じた向こう側で見てる人たちはステークホルダーというお客さんを見えています。そうしたね、ニュースの種をステークホルダーに正確

に届けるためにどのメディアの皆さんに取り上げてもらうのが一番効率的なのか。そしてそのメディアの皆さんにニュース・リリース、ニュース・リリースって聞いたことあるかな？

廣村：はい。

牧：はい。あとは取材案内とか送ったり、送った後で電話をして説明したりして取材に来てもらうことが広報の仕事です。あとはね、あんまりあっちゃ困るんだけど、事件とか事故が起きた場合の対応も一緒ですね。ということで、広報の仕事はね、会社の中で誰よりも幅広い人たちと関係性を築いていく仕事なんですよ。だからね、始めに言った一番楽しくもあり失敗できないやりがいのある仕事が、広報なんですよ。

廣村：なるほど。

農業法人の広報として重要なこと

廣村：牧さんは具体的にはどんなことをしているんですか？

牧：あ、そうですね。私はその、農業の会社の広報なので、全国に一応20か所農場があるんですけど。その農場で今何が育っていて、何が出荷間近なのかってことをまず情報として把握しておきます。例えば、これから先だと8月のお中元の時期に出せるタイミングの野菜って、果物って何があるんだろう？ って考えたりなんかして、それを会社の中で提案をして社長のオーケーをもらってニュース・リリースを発信して、メディアの皆さんに働きかけていくっていうのが仕事ですね。

廣村：そうなんですね。

ニュース・リリースっていうのは、例えばどんなことを作ってるんですか？

牧：はい。これ、ニュース・リリースは届けたい相手っていうのは、メディアのまあ記者さんだったりディレクターさんだったりなんかするので、その人たちになるべく簡潔に5W1Hに気を付けて、いつどこで、どの農場からどんな商品が出ていくのかってことを書くのがニュース・リリースです。で、それをですね、そのほかに文章だけでは伝わらないことが多いので、農場の写真だったりとか、あとは生産者がその商品を持った写真だとかってことを盛り込んでリアリティを出していくと。それだけでは足りないような場合、要するに新商品、今までにないような商品を出していくときには、実は商品発表会みたいなことをしたりなんかします。

廣村：発表会……。

牧：はい。そこにはですね、記者さんと呼んで実際に農場の中を歩いてもらって五感でね、感じてもらうことも実は農業法人の広報としては重要なところですね。

廣村：どうして五感で感じてもらうことが大切なんですか？

牧：それはですね、やっぱり記者さんたちっていうのは普段畑にいないですよ。だから実際に畑に来てもらうことによってね、こちら側から案内した文章だけで伝わらないことを感じてもらうのがそもそもの目的で。例えば鳥の鳴き声がしてるとか、畑のその周りの風景ってどうなっているとか、どんな人たちが作っているとかっていうことを感じてもらう

ために、農場に来てもらうことをいつも心がけてます。記者さんからも実際に（記事を）書いた後とかその日にですね、来てみてよかったっていう声をすごく聞くんですよ。書く側としても想像力を膨らませるためには、実際現場を見てもらうってすごく重要なことなんですよ。

廣村：記者さんからそういう言葉を聞いて広報やってよかったなと思いますか？

牧：そりゃそうですね、やっぱりそう思いますよね。

さまざまなメディアと向き合ううえで心がけていること

廣村：いろんなメディアの人と広報として向き合ううえでどんなことを心がけていますか？

牧：そうですね、間違っただけを伝えちゃうことが一番広報としていけないので。まずその出会った記者さんの懐に飛び込むってことがすごく重要なんですよ。

具体的にはその記者さんが過去にどんな記事を書いてきたのか。それをね、片っ端から調べ上げます私の場合。で、当日その記者さんと会ったときに過去の記事について感想を言ったりなんかすると、あ！この人今日初めて会ったのに事前に自分のことを調べてきてくれたんだなっていう好感は持ってもらえるはずなんです。そのうえでこっちの伝えたいことを少しずつ話していくってことは、間違っただけを伝えないためにね、すごく重要なことだったりしますね。

広報の仕事のやりがい

廣村：広報の仕事のどんなことにやりがいを感じますか？

牧：やっぱりね、自分が社内を回って集めてきたニュースのタネが世に出たときが一番うれしいですね。

廣村：なんでそれが嬉しいんですか？

牧：野菜って作る人たちがいてその商品があるので。そこにはね、ストーリーがあるんですよ。愛情を込めて育てた野菜がどう社会に受け入れられていくのかってことがすごく重要な広報としてのミッションなので。それが成功したときにはね、嬉しさがありますね。

仕事で大切にしていること

廣村：牧さんが広報のお仕事で大切にしていることって何ですか？

牧：そうですね、まず誠実であることが大切ですよ。

廣村：誠実であること。

牧：はい。そして正しい情報を正しく伝えるということが結構大切です。でね、次に必要なことってというのは、世の中の流れを常に把握していくことですかね。例えば最近だと自然災害って続いてますよね。そんなときに自分たちの都合だけのニュースを流してしまうと、それってこちら側の思いと社会の思いが違っちゃう可能性がありますよね。要するに暗い

社会ムードのときに明るくハッピーなニュースってなかなかあわないじゃないですか。なのでそこを間違えないようにするってところが結構重要ですね。あとはね、今からだとお中元のシーズンだとか、あ、そうか。8月の31日っていうとですね、野菜の日っていうんですよね。

廣村：あ、野菜の日？ はい。

牧：そう。8月の31日で野菜（^やきい）。で、まあそれ、別に国民の休日とかでも何でもないんだけど、そこに合わせて何か新商品の発表をしたりとか、そういうことができないのかなとか、そのシーズンごとに例えばハロウィンでカボチャ。カボチャ……うちで作ってたかなとか。クリスマスに合う商品ってなんかないかな、とかいうことを考えていくのが大切にしていることですかね。

仕事での失敗

廣村：これまでに仕事で失敗してしまった事とかってありますか？

牧：これがね、広報っていうのはね、失敗が許されない仕事なんですよ。

廣村：できない？

牧：そうなんです。僕の発言が間違った形で伝わっちゃう、伝わっちゃうとそれはね、大変なことになるんですよ。例えば、新商品が出るってことが決まってないのに口を滑らしちゃったら大変なことになるし。あとは、そもそもやってないことをやってるかのようには伝えちゃうようなこともすごくいけないことなので。事前にね、何をしゃべるか、何を伝えるかっていうのはね、綿密にね、考えておくことが必要なんですよ。だから失敗ってね、したことないっていうのが言いたいところかな。

お気に入りの音：畑を歩いているときのザクザクという音

廣村：牧さんがお仕事をしている中で好きな音ってありますか？

牧：やっぱりね、これ。畑の音ですね。

廣村：畑の音。

牧：畑っていうのはね、今から作付けをするっていうときには1回耕してから種をまいたり苗を植えたりなんかするからふかふかなんです。でもね、風雨にさらされて、あとは作物自体が例えば大根とかが成長するときって、周りの土を押しつけて大きくなっていくからだんだんだんだん土って固まっていくんですよ。だからね、ザクザクって音が実はね、そのまあ農業してる人たちはね、ワクワクする音だったりなんかするんですよ。あとは



このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。

ね、畑にいと自然の音がたくさん聞こえてくるんですよ。風に注ぐ木の葉っぱのかすれるような音だとか、夏だったらひぐらしが鳴くような鳴き声だったりとか。あとは小鳥のね、鳴き声とか。畑ってね、一日中いてもね、すごいいろんなね、癒やされる音が流れてるんですよ。

コミュニケーションの取り方

廣村：牧さんは広報としてさまざまな人たちとコミュニケーションをとってると思うんですけど、コミュニケーションをとるのがあんまり得意ではないっていう高校生たちに何かアドバイスはありますか？

牧：これって失敗することを恐れてるってことですかね？

廣村：そうですね。

牧：だとするとやっぱり若者の特権って失敗できるところにあると思うから、どんどんね、自分が思ったことを相手に伝えていくっていうことがコミュニケーション力が上がる秘けつだと思ってるんです。だからこれがね、広報っていう仕事だと、僕が何か言い間違っちゃうっていうわけにはいかないから、若いうちからね、それはどんどんトレーニングをしていかないと広報にはなれないですね。

廣村：どんどん伝えていくってことは勇気があることだと思うんですけど。

牧：でもね、歩いていかないと風景って変わっていかないんですよ。だからね、歩けばね必ず周りの風景が違って見えるし、そうすると気づくことも新たな発見もたくさん出てくるんですよ。だからね、恥ずかしさを押さえて、そこを1歩踏み出すことはとても重要だと思いますね。

高校生へのアドバイス

廣村：自分がどんな仕事を将来したいか悩んでいる高校生にアドバイスをお願いします。

牧：そうですね。これはね、たくさんの選択肢で迷わないっていうことが実は大きな秘けつだと思っています。僕の場合は、これまでは2つに1つ……という選択肢の中で職業を選択してきました。

廣村：2つに1つ……。

牧：そう。たくさんの選択肢で進んでしまうと、もしそっちに進んで、「あ！ 違った！」って振り返ったときに、3つも4つも選択肢があると、また迷っちゃうわけじゃないですか。で、進むとね、人間って成長するからいろんなスキルが身につくんですよ。

で、「あ！ じゃあ、こっちはなかった！」って考えたときにもう1つしかないわけですよ。で、1つしかない場合は、そこでもう1回考え直すことができますよね。「あ！ もう1つのほうでもなかった！」ってことって、あると思うんですよ。進んだからこそわかるっていう。で、進んだときにまた2つに1つで迷うようにする。その癖をつけていくと、最初は就職活動とかでスタートラインに着いたときに不安だった。自分がどっちに向

いているのかってということが最初わからなかったけど、だんだんだんだん折れ線グラフに平均線を引くように、振れ幅が小さくなっていくんですよ、人生って。要するに今まで培ってきたスキルで次を生かそうとするから。そうすると10年経って後ろを振り返ったときに、「あ！自分の人生って意外とまっすぐだったな……。」っていうことを、そのとき初めて気づけるんですね。だからね。そうやって考えると、悩んでいるのってあなただけじゃないってことが言いたいんですよ。で、同級生たちみんな悩んでいるし……。

廣村：そうですね。

牧：もっと言うと、去年の先輩たちも同じ思いをしたわけですよ。日本の高校生って考えたら、もっと母数上がるわけですよ。何十年も前から先輩が同じタイミングで悩むわけですよ。だからね、あなただけにできないってことは絶対はないと思っているんですよ。だからこそ、一番大きな秘けつは前に一步踏み出すことなんですよ。さっき言ったように、踏み出せば風景は必ず変わるので……。

★あなたが今、一番楽しくてやりがいのあることはなんですか？

.....
.....
.....

★あなたは、さまざまな場面で失敗しないように気をつけていることはありますか？

.....
.....
.....

★今日あなたに起こったことを友達に伝えるとき、何を大切にしますか？

.....
.....
.....

.....
.....
.....

.....
.....
.....

このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。